

(一社)大学女性協会奈良支部主催

「奨学応募生のお話を聞く会」(報告)

2023年2月11日(土・祝)午後2時から、奈良女子大学の一般講義室をお借りして、標記の会を開きました。応募生のお一人が東京在住であることから対面とオンラインのハイブリッド方式を採用しました。参加者は、発表者を含め対面7名、オンライン2名でした。

研究内容のお話をしてくださったのは、次のお二人です。

○守田つかさ氏(奈良女子大学人間文化研究科 博士後期課程 共生自然科学専攻)

テーマ「性能向上を目的とした新規構造の多鎖型界面活性剤の開発」

○西森裕佳子氏(奈良県立医科大学 脳神経内科)

テーマ「炎症性筋疾患における臨床病理学的検討と病態解明」

守田さんの研究は界面活性剤が活用されている化粧品などのしっとり、滑らかな使用感や保存安定性の重要性をさらに向上するための新規構造の界面活性剤の開発などをしていきたいとのことで、身近なことと感じられ、講演後には洗剤などに関する質問がありました。

西森さんの研究は、原因が判明していない神経筋疾患の発症メカニズムの解明に関わる研究を通して、その治療開発を進めたいとのことで、症例から心筋や呼吸筋に現れる症状について多方向からの分析や臨床情報のデータベース化を進めている。難病とされながら心臓や呼吸活動の症状は比較的中老年の女性に多いとされていることから、質問や感想など多く発言がありました。

お二人とも資料の準備をしっかりと頂いて、私たちにわかり易くお話してくださいました。それでも学術的に最先端の内容であり、時々専門用語などについてのお尋ねもありましたが、出席した人数が少ないにも関わらず、沢山の質問やコメントなどが出されて、充実した時間でした。さらに出席者の多くが女性研究者であったことから、女性が研究者として充実した生活を進めるための要件などについても話題が広がり、意味のある会であったと思われました。

後日、お二人からも「専門以外の方にも聞いて頂き、プレゼンテーションの工夫が必要と思いました。とても良い機会を作って頂きありがとうございました」と感謝の言葉がありました。



(文責 平井)